

ハンス・ベルメール

- 1902年 3月13日、シュレージエン地方カトヴィッツにて裕福な技師の長男として生まれる
- 1921年 父親に対して反抗的態度をとり、矯正目的のため炭坑や製鉄所での労働を強いられる
- 1923年 父親のすすめでベルリン工科大学に入学
- 1924年 ダダイストのジョージ・グロスやオットー・ディクス、ジョン・ハートフィールドと交遊
大学を中退し、植字工見習いとして働き始め、小説の表紙や挿絵を手がける
- 1926年 ベルリン郊外のカールスホルストに印刷やデザインを請け負う事務所を開設
- 1928年 マルガレーテと一度目の結婚
- 1932年 妻の病氣療養のためチュニジアとイタリアに滞在後、コルマールに滞在
マティアス・グリューネヴァルトの「イーゼンハイム祭壇画」を見て深い感銘を受ける
秋、ベルリンでオッフェンバック作曲のオペラ「ホフマン物語」を観る
第二幕に美しい自動人形の少女オランピアが登場し、ベルメールを触発した
- 1933年 政権掌握したナチスへの抗議のため職業を放棄し、フリーのアーティストとなる
最初の人形制作に着手。まだ球体関節を持った人形ではない
- 1934年 写真集「人形」を自費出版で刊行
パリのシュルレアリストの賞賛を受け、機関誌「ミノトール」の表紙を飾る
- 1935年 2月、パリに滞在し、ポール・エリュアールやアンドレ・ブルトンと出会う
シュルレアリスム・グループ展へデッサンを出品
ベルリンのカイザー・フリードリヒ美術館にて16世紀ドイツの球体関節人形と出会う
- 1936年 ロンドンやニューヨークなど多くのシュルレアリスム展へ出品
- 1937年 東京のシュルレアリスム国際展に出品。雑誌「みづゑ」にも写真作品が掲載される
- 1938年 2月、病気がちだった妻マルガレーテ死去
ナチスから逃れパリへ移住。マルセル・デュシャンやマックス・エルンストらと出会う
- 1939年 9月、第二次世界大戦勃発
ドイツ国籍のベルメールとマックス・エルンストは共に南仏のミュ收容所に抑留
- 1940年 解放され南仏カストルに滞在
- 1942年 フランス人女性マルセル・セリーヌ・シュテールと再婚。翌年双子の女兒をもうける
- 1946年 一時期往信不通であったドイツの家族との連絡が再開、父の死を知る
ジョルジュ・バタイユの小説「眼球譚」の銅版画による挿画に取りかかる
- 1947年 2番目の妻との離婚。パリにてはじめての個展
- 1949年 ポール・エリュアールの詩とベルメールの写真から成る「人形の遊び」刊行
- 1953年 ドイツに一時滞在。ウニカ・チュルンとの交際が始まり翌年よりパリで同棲生活
- 1957年 著書「イマージュの解剖学」刊行。日本語版は1975年種村季弘により翻訳
- 1958年 ウニカをモデルとした緊縛写真を撮影し、「シュルレアリスム・メーム」誌の表紙を飾る
- 1959年 母が死去。ベルリンに一時期滞在
- 1961年 銅版画集「サドに」刊行
- 1965年 ジョルジュ・バタイユ「マダム・エドワルダ」の挿画を手がける
雑誌「新婦人」で澁澤龍彦がベルメールの球体関節人形を紹介
- 1969年 脳卒中で倒れ、半身不随となる
- 1970年 統合失調症にて入退院を繰り返していた恋人ウニカ・チュルンが投身自殺
- 1971年 パリ、国立現代美術センター (CNAC) で大規模な回顧展
- 1975年 癌により没。パリ、シカゴ、ジュネーヴにてベルメール展